

# あれから1年、多くの命が脅かされてから —ウクライナ人道危機への救援活動報告—

日本赤十字社は「ウクライナ人道危機救援金」の募集のもと、現地で危機対応を展開する国際赤十字へ総額50億2,000万円の資金援助、加えて、多岐にわたる人材の派遣により人的貢献を行ってきました。  
今後も日本赤十字社の強みである保健医療分野を活かした機材支援や技術支援等を通じて中長期的な視点で、救援・復興支援を続けます。

ウクライナ人道危機救援金にご協力ありがとうございます。

募集期間：2024年3月31日まで（予定）

受付金額

日赤全体（2023年5月31日時点）

88億6,103万5,120円（134,655件）

岩手県（2023年6月12日時点）

5,661万9,377円（1,611件）

※全額が現地への支援に用いられます

岩手女子高等学校からの救援金贈呈

岩手県ユネスコ連絡協議会からの救援金贈呈

※花巻市のふるさと納税ホームページ  
これまでに、延べ1,165万6,500円のご協力をいただいています。（2023年6月15日時点）

# 紛争のさなか、難民を直撃 —トルコ・シリア地震への救援活動報告—

2023年2月6日、トルコ南東部のシリアとの国境付近で発生したマグニチュード7.8の地震とその後も続いたマグニチュード7クラスの余震により、数十万の建物が損壊し、トルコ、シリア両国合わせて約6万人が犠牲となる甚大な被害を受けました。多くの人が家が失い、現在も避難生活を余儀なくされています。  
日本赤十字社は国際赤十字の大規模な資金援助要請に対して速やかに「2023年トルコ・シリア地震救援金」の募集を行い、これをもとに国際赤十字、被災国赤新月社への資金援助や物資支援を実施しました。加えて、トルコ・シリア両国に連絡調整員を継続的に派遣し国際赤十字との連携を行っています。

日赤は引き続き変化する現地のニーズに合わせて救援活動を続けるとともに、将来の復興を見据えた中長期支援を計画・実施していきます。

トルコ・シリア地震救援金にご協力ありがとうございました。

募集期間：2023年2月9日～5月31日  
（受付は終了しました）

受付金額

日赤全体（2023年5月31日時点）

56億1,840万8,885円（132,726件）

岩手県（2023年5月31日時点）

1,282万2,650円（328件）

※全額が現地への支援に用いられます

いわて門崎丑牧場からの救援金贈呈

盛岡中央高等学校及び同附属中学校からの救援金贈呈

## 令和4年度決算報告

6月6日、令和5年度第1回評議員会が実施され、令和4年度事業報告と歳入歳出決算が全て承認されました。皆さまのご支援のおかげで、苦しんでいる人を救う赤十字活動に有効に活用させていただきました。

収入 229,423千円

一般活動資金 168,267千円

その他（講習収入、前年度繰越金等） 39,390千円

おかげさまで整備させていただきました!!



法人活動資金 21,766千円

支出 229,423千円

災害救護活動 35,832千円

市町村の赤十字活動、奉仕団の活動 44,074千円

国際活動、赤十字の全国事業 34,332千円

次年度繰越金 16,217千円



ボランティア活動 18,833千円

赤十字思想の普及広報 48,428千円

業務運営 31,707千円

※病院、血液センター、社会福祉施設は施設毎の特別会計になっており、この決算には含まれていません。



## 社会貢献セミナーのご案内

沿岸初開催!

日赤岩手県支部では、遺贈（遺言による寄付）、相続財産寄付（相続人が相続により取得した財産による寄付）を承っています。  
今年度第1回のセミナーを10月29日（日）に陸中海岸グランドホテル（釜石市港町）で開催します。

遺贈・相続財産寄付について考えるきっかけにしてみませんか？

昼食、受講料、個別相談全てが無料のセミナーです。  
お一人でも、ご夫婦でもご興味のある方はお気軽にご参加ください。  
先着30名ですのでお申込みはお早め!!



## 高額寄付者のご紹介

令和5年1月～6月に岩手県支部へ10万円以上のご寄付をいただき、掲載のご了承をいただいた個人様・法人様のお名前を紹介しています。（順不同・敬称略）

- 個人 ・久慈 俊幸 ・遠藤 武 ・福田 幸（故人） ・鈴木 敦 ・高西 良介  
法人 ・(株)一騎工業（奥州市）・岩手県医師信用組合（盛岡市） ・(株)高橋鉄筋工業（奥州市）

## 寄付金付き自動販売機設置企業のご紹介

令和5年1月～6月に5社7台設置していただきました。（敬称略）

- ・盛舖建設(有)（盛岡市） ・(株)サンクス・エクスプレス（北上市、矢巾町）  
・二富電機(株)（盛岡市） ・(株)佐々木組（一関市）  
・(株)メガネの松田（盛岡市）



## 読者プレゼントのご案内

読者の皆様からの感想を募集しております。WEBフォームまたははがき・FAXでお寄せ下さい。抽選で日赤オリジナルグッズ（クリアファイル、メモ用紙、蛍光ペン）を進呈致します。当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

WEBフォーム

<https://forms.office.com/r/nQKNRQphbK>

はがきまたはFAX

下記必要事項（①～⑧）を明記のうえ、送付ください。  
①郵便番号、②住所、③お名前、フリガナ、④年齢、⑤性別、⑥メールアドレス、⑦本誌の感想、⑧今度取り上げて欲しいテーマ



発行者  
問い合わせ先

日本赤十字社岩手県支部組織振興課  
〒020-0831 盛岡市三本柳 6-1-10 TEL 019-638-3610 FAX 019-638-3619

# 赤十字いわて

No.61  
2023

夏季・秋季号



# 赤十字は、動いている!

## + SAVE365

Japanese Red Cross Society

日本赤十字社 岩手県支部



ハートワッチャ



日赤岩手県支部の活動は「インスタグラム」へ

## 災害時はもとより、平時も赤十字は活動しています

# 岩手県でも365日、救うことを続けています

### 常時出動できる救護体制の構築



災害時において被災者に対する一刻も早い応急救護が必要な場合、日本赤十字社は救護班を派遣し、救護活動を行います。これは、迅速な応急的災害医療により、一人でも多くの人命を救助するとともに、被災地の医療機関の機能が回復するまでの空白を埋める役割を果たすものです。

救護員は職員のなかから選抜された一定の教育を受けた者が任命されます。救護班は、医師1人（班長）、看護師長1人、看護師2人、事務職員2人の計6人を基準に編成し、直ちに活動ができるように事前に常備救護班として編成されています。

また、救護活動に必要な車両や資機材も全国で整備しています。

### 全国の赤十字

救護員数 **8,077人**

災害救護に関する一定の研修を終え、現地に派遣が想定される者を救護員として登録

常備救護班数 **487班(5,231人)**

災害が発生し、医療救護の必要が生じたときは、直ちに活動ができるよう事前に編成された救護班  
救護班は医師1名、看護師長1名、看護師2名、主事2名の6名で編成される

無線局 **3,130局**

災害時の電話の不通時等に使用する赤十字専用の周波数の無線局

救護車両 **2,206台**

被災地への救護、救援物資運搬に使用する車両や赤色灯のついた緊急走行できる車両も配備

### 日赤岩手県支部

**302人**

**8班 (24人)**

### 日本赤十字社岩手県支部救護員任命式

5月9日、新たに10名が赤十字救護員として任命されました。  
災害発生時には現地へ派遣され、被災者支援等に従事することとなります。

いつ起こるか分からない災害に対し、より早く被災者に寄り添った救護活動が行えるよう、この任命式を通じて、災害対応にあたる救護員一人ひとりの意識を高めました。

任命後、日赤岩手県支部では救護員登録されている職員を対象にして、救護員としての知識や技術を維持、向上させていくため実動に沿った内容の研修を毎年行っております。普段は医師、看護師、事務としてそれぞれの施設で業務に従事しておりますが、平時から通常業務と並行して備えています。



救護員になるための研修の様子



今年度新たに救護員登録された一同

### 災害救護の専門家になるための研修

災害時は非日常であり、被災地で活動するには相応の知識と技術が求められます。日赤岩手県支部では災害救護の実動に必要な基礎知識と技術について学ぶ災害研修会を継続しています。

今年度は6月30日に基礎研修として災害時の傷病者優先決定(トリアージ)や通信(EMIS、無線、衛星携帯電話)、記録(フクロノ)等を習得し、7月21日に応用研修として、災害カルテ記録やアプリ操作(J-SPEED)、救護所・避難所運営などを机上演習・グループワークを中心に実働の流れを確認しました。

#### 毎年実施している研修

- ・災害救護基礎研修会 (調整基礎)
- ・ // (診療応用)
- ・全国赤十字救護班研修会

その他、国の災害救護に関する研修(DMAT研修等)にも積極的に参加しています。



### 実災害を想定した訓練

研修で学んだことを活かしつつ、日赤内部で実働の訓練を実施しています。また、災害時には地域の行政、自衛隊、警察、消防、医療等の多くの外部団体と連携して活動することになるので、県や市町村の防災訓練にも積極的に参加しています。

今年度は5月21日に国土交通省、岩手県、県内15市町が主催の北上川上流総合水防演習に参加しました。北上川の氾濫を想定した訓練でしたが、7月の大雨災害でも県内で避難所が開設されたこともあり、改めて訓練の重要性を確認しました。

#### 今年度参加予定の訓練

- 7月29日 **岩手県総合防災訓練**
  - 9月22日 日赤岩手県支部管内施設合同災害救護訓練
  - 10月20~21日 日赤第1ブロック支部合同災害救護訓練
  - 11月18日 **盛岡市総合防災訓練**
  - 11月18~19日 緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練
- その他、他団体や市町村で行われる訓練にも積極的に参加しています。



北上川上流総合水防演習の様子

### 平時から地域の防災意識を醸成

#### 赤十字防災セミナー

災害時には被災地に日赤が駆け付けますが、到着までの身の安全は地域の防災力(「自助」「共助」)に頼ることになります。日本赤十字社では過去の災害から得た教訓を踏まえ、地域住民が自ら災害から命を守り、罹災に伴う心身苦痛を軽減することを目的に、災害への備えについての説明や災害図上訓練、災害の追体験(災害エスノグラフィ)など、「自助」「共助」の力を向上させるための防災セミナーを学校、企業、地域等様々な方を対象に実施しています。



災害時の注意点を学ぶ講義



実災害の読み物を通じた追体験



ハザードマップ等を通じ、地域の危険発見



災害時の非常食調理体験

### いのちを守る知識や技術を伝える講習会



災害時でなくとも日本赤十字社では「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命を果たすため、身近なケガに対するとっさの手当てや日常生活での事故防止など、健康安全に関する知識や技術の普及と啓発を行っています。

日赤岩手県支部では指導員の専門資格がある者が、救急法(日常生活における事故防止や手当ての基本など)、水上安全法(水の事故から人命を守るための知識と技術)、幼児安全法(乳幼児期に起こりやすい事故の予防とその手当など)、健康生活支援講習(高齢期に必要な健康増進の知識や高齢者の支援や自立に役立つ介護技術)の4種類の講習を毎年実施しており、今年度はコロナ禍前の規模での開催を予定しています。

#### 令和4年度の講習実績

延べ **223**回 計 **4,617**名の受講(短期講習を含む)  
換算すると、平日はほぼ毎日講習を実施!!



#### 今後の講習開催日程 受講者募集!

講習種別	コース名	開催日程	時間	会場
救急法	基礎講習	2023年8月31日(木)	8:30~13:00	日本赤十字社岩手県支部
	救急員養成講習	2023年9月1日(金)~2日(土)	9:00~17:00 9:00~16:00	
水上安全法	救助員I養成講習	2023年9月9日(土)~11日(月)	9:00~17:00	盛岡市立総合プール
幼児安全法	支援員養成講習	2023年10月13日(金)~14日(土)	9:00~17:00	日本赤十字社岩手県支部
健康生活支援講習	支援員養成講習	2023年11月2日(木)~3日(金)	9:00~17:00	日本赤十字社岩手県支部

その他、学校や職場、地域の集会等で時間に合わせて開催できますので、是非ご相談ください。  
また、今年度は救急法と幼児安全法の指導員の養成研修を実施予定です。

### 高齢化社会を支える地域活動



岩手県の高齢化率はR4年時点で**34.6%**と**増加傾向**にあります。自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるためには、地域ぐるみで支えあえる地域づくりが大切です。

国は、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的に、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築等を強く推進しています。

日赤岩手県支部では地域包括ケアの推進に向け、各市町村や岩手県内に33ある地域奉仕団とともに、サロン活動、健康エクササイズ、健康講座・相談・測定等を通じて老若男女問わず、様々な世代間の交流を目的とし、互いに支えあえる地域づくりのための支援を行ってまいります。



### あなたも赤十字の一員に!! 絆ボランティア募集中!

「苦しんでいる人を救いたい」というあなたのその熱い思いを胸に、赤十字が行う**365日の活動**に参画してみませんか??

